

林野

RINYA



特集

森林×ACTチャレンジ2025



令和7年 緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

受賞者 紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が表彰を行うものです。

令和7年は13の個人・団体が受賞されました。本誌では毎号、受賞者の方々をご紹介します。

やまでらがわ

山寺川をきれいにする会(福岡県北九州市)

同団体は、地域の住宅街を流れる山寺川の河川環境を守ることを目的として平成11年に結成され、川沿いの環境整備や河川環境等に関する学習会の開催などを通じて地域の緑化推進に取り組んでいます。

整備活動は、地域住民にも参加を呼びかけ、枝の剪定等による川沿いの樹木の整備や、花壇への植栽等を定期的実施し、年間延べ500人以上が参加する地域活動として定着しています。また、見守り活動も行っており、子どもが安心して自然に触れ、親しむことができる場を確保しています。

同団体の活動は、河川周辺の緑化推進活動のみならず地域の交流を促進する役割も果たしています。



会員の皆さん



環境整備活動



学習会

過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/index.html



人と森をつなぐ情報誌



2025
No.225

表紙の写真：森林×ACTチャレンジ2025グランプリ京王電鉄株式会社社員による「京王水源の森」の保全作業と集合写真

ウェブアンケートにご協力をお願いします!

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202512.html>



Contents

- 3 **特集** ^{アクト} 森林×ACTチャレンジ2025
- 7 TOPICS 01 緑の募金法制定30周年
- 8 TOPICS 02 森林・林業の魅力を発信 来たれ未来のフォレストワーカー!
- 10 TOPICS 03 第64回農林水産祭における天皇杯等三賞受賞者(林産部門)の紹介
- 12 日本の林業遺産を知ろう! 「岩手木炭」の伝統的な生産技術—高品質な木炭生産を続ける岩手の木炭業—
- 14 フォレスター活動書記 地域に根差した森づくりと地域づくりに向けて
- 16 国有林野事業の取組 ウッディホールでの展示や森林環境教育を通じた普及活動について
- 18 TOPICS 04 令和7年度木材利用推進コンクールの受賞施設等決定!
- 19 みどりの大使が行く! 行動力あふれる高校生の発表を聞いて



2050年ネット・ゼロの実現や生物多様性保全等に貢献する、企業等による森林づくり活動を顕彰(森林×ACTチャレンジ2025)



特集 アクト 森林×ACTチャレンジ2025

日本は国土の3分の2を森林が占める森の国であり、この森林を適切に整備・保全することは、森林による二酸化炭素吸収量の確保・強化につながり、2050年ネット・ゼロの実現に貢献するとともに、生物多様性保全といった森林のもつ公益的機能を発揮させる上でも大変重要な取組です。

また、企業活動の持続可能性に関する非財務情報開示が広がる中、企業等が支援等をして行う森林づくり活動が全国で広がっています。企業が気候変動対策や生物多様性保全の一環として森林整備に関わることは、豊かな自然を未来に守り伝える上で重要です。

このため、林野庁では、さらに多くの企業等に森林づくり活動へご参画いただくべく、企業等による森林づくり活動を顕彰する取組「森林×ACTチャレンジ」を実施しています。

今回の応募及び審査の状況

本顕彰制度は、2022年度より「森林×脱炭素チャレンジ」の名称でスタートし、2023年度には企業等による森林由来のJ-クレジットの活用について顕彰するJ-クレジット部門を創設したところです。また、2023年に「自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）」の提言が公表され、自然資本や生物多様性に関する情報開示の枠組みが示されたことを受け、2024年度より、生物多様性保全を新たな評価項目に加えるとともに、より幅広い視点で森林への関わりを推奨する観点から、名称を「森林×ACTチャレンジ」に変更しました。今回で4回目の開催となります。

今回の受賞者の取組の概要を紹介いたします。

森林×ACTチャレンジ2025 募集内容等

- 応募期間：令和7年4月21日～6月30日
- 応募総数：30件（森林づくり部門：26件、J-クレジット部門：4件）
- 審査内容：整備した森林に係るCO²吸収量と取組内容（森林づくり部門）
取得した森林由来J-クレジット量と活用内容（J-クレジット部門）
- 応募対象：令和5年度及び令和6年度の間に森林整備又は森林由来J-クレジットの活用を行った法人、団体、個人、地方公共団体

受賞者の取組概要



内外装に多摩産材を活用した高尾山口駅の駅舎



裏高尾での植樹活動



京王電鉄株式会社



木材会館で開催された表彰式

(左)山本農林水産大臣政務官

(中)京王電鉄株式会社 取締役常務執行役員 中瀬 正春 氏

(右)京王電鉄株式会社 開発推進部部长 中嶋 良平 氏



社員研修



「京王水源の森」での集合写真

環境にやさしく、未来社会に豊かな環境を引き継ぐ

京王グループでは、「環境にやさしく」という同グループの理念に基づき、都市と自然が身近にある京王線沿線の豊かな自然環境を維持するとともに、未来社会に豊かな環境を引き継ぐため、森林に関する様々な活動を行っています。

北海道に所有する約300haの社有林では、地元の森林組合と連携し、「伐って、使って、植えて、育てる」森林の循環利用に取り組んでいます。また、東京都水道局の「みんなでつくる水源の森」に賛同し、「東京水道（企業）の森」（ネーミングライツ）の協定を締結し、山梨県の水道水源の森の一部を「京王水源の森」として、社員による森林づくり活動を通じた多摩川上流域の森林保全に貢献しています。さらに、京王線で新宿駅から約1時間の「高尾山口駅」の駅舎や多摩動物公園駅前にある全天候型遊戯施設「京王あそびの森 HUG HUG」の遊具等に多摩地域から産出される多摩産材を活用するほか、2008年からは、「文化」「教育」「子育て」に関する学びを提供する「京王アカデミープログラム」の一環として、日本山岳会「高尾の森づくりの会」と共同で「高尾の森親子森林体験スクール」を実施しています。重要な社会インフラである鉄道の価値を基盤に、グループ理念に基づいた森林づくり活動を通じて、地域と企業が連携した森林資源の循環利用を着実に推進し、教育・観光・地域振興へと波及させた点が高く評価されました。

優秀賞

林野庁長官賞

協同組合 ウエル造林

確実な再造林の実施こそ福島 の森林再生への道

協同組合ウエル造林は、東日本大震災の影響を大きく受けた福島県の森林の復興と持続的な森林経営のための確実な再造林の実施に取り組むべく、2021年4月に設立されました。福島・茨城・栃木の3県の製材業者・林業事業者・素材生産業者が連携し、一貫作業システムの導入等による施業の効率化・低コスト化等を進め、森林の若返りや二酸化炭素吸収量の確保、伐採後の確実な再造林に広域的に取り組んでいます。営業や伐採、造林といった各部門が連携して3県にまたがる広域的な森林づくりに貢献するとともに、所有者の理解を得ながら確実な再造林を行いつつ、広葉樹等の保残などの生物多様性にも配慮している点が評価されました。



「福島の再造林推進を考えるシンポジウム」



大苗育成技術に関する実証試験

セガサミーホールディングス株式会社

企業力で未来の森を育む 環境保全と地域共生を目指す セガサミーの森

セガサミーグループは、グローバルに事業を展開する企業グループとして、持続可能な社会の実現に向けたサステナビリティ経営を推進しています。長野県の「森林の里親事業」に賛同し、長野県の南相木村と「森林の里親契約」を締結し、同村の民有林約3,633haを「セガサミーの森」と名付け、森林整備資金の提供をはじめ、社員による森林整備体験等を実施するほか、社員と南相木村の積極的な交流や、SNSを通じて双方の取組の発信など、南相木村に資金とヒトを送り込み、継続的な森林整備を行いつつ、地域活性化の好循環を生み出す、企業と森林が共生する一つの模範となる取組と評価されました。



「セガサミーの森」での集合写真



南相木村の森林

宮崎県延岡市／延岡西日本マラソン

スポーツの力で地域を元気に、森を未来へつなぐ

宮崎県延岡市は、地域の約85%を森林が占める自然豊かな地域であり、森林は古くから地域の暮らしや産業、文化の基盤として、地場産業の発展を支えてきた重要な要素となっています。延岡市では、九州三大マラソンの一つである「延岡西日本マラソン」において、森林由来「クレジット」を活用し、大会運営に伴うCO₂排出のカーボン・オフセットを実施するとともに、地元企業や森林所有者に対する「クレジット」への関心と認知度向上に取り組んでいます。特に「クレジット」の地産地消に注力しており、森林由来「クレジット」をカーボン・オフセットの手段にとどめず、地産地消することを通じて、地域の理解促進等に結びつけることを、自治体が主導している点が評価されました。



「延岡西日本マラソン大会」



クレジットを創出した延岡市の森林

表彰式の開催

11月4日、木材会館(江東区新木場)7階大ホールにおいて、「森林×ACTチャレンジ2025」の表彰式を開催しました。

当日は、受賞企業をはじめ多くの企業や団体の方々など、約180名にご参加いただきました。グランプリを受賞した京王電鉄株式会社には、山本農林水産大臣政務官から農林水産大臣賞が授与されました。

京王電鉄株式会社 取締役常務執行役員の中瀬様からは、「今回の受賞は、我々だけで成し遂げたものではない。ともに汗をかき、力を尽くしてくださった東京都水道局様、日本山岳会様、胆振西部森林組合様はじめ多くのパートナーの皆様へ、改めて感謝申し上げます。この喜びを分かち合いたい。今後、さらに取組を強化し、地域とともに歩む企業として、豊かな自然を未来へつなぐ活動を続けていきたい。」とのコメントがありました。

「サザエさん一家の『もりのわ』話 吹き出しコンテスト」の表彰式および「第4回森林づくり全国推進会議」を合同開催

「サザエさん一家の『もりのわ』話 吹き出しコンテスト」は、令和5年度から長谷川町子美術館の協力を得て、林野庁が「みどりの感謝祭」の併催行事として開催しているもので、今年で3回目の開催です。表彰式の前に4名の受賞者と長谷川町子美術館館長川口様、および林野庁担当者との意

見交換を行い、応募のきっかけや作品制作時の発想、応募にあたって調べたこと等について伺いました。林野庁長官賞を受賞した縄さんからは、「以前から植樹イベントに参加していた。サザエさんのおうちよこちよいだけで一生懸命な性格からセリフを考えた。」等のコメントをいただき、同じく林野庁長官賞を受賞した竹林さんからは、「学校の授業の一環でコンテストに応募することになり、森林の多面的機能など授業で習ったことを活かして制作した。」等のコメントをいただきました。(受賞作品の紹介については、情報誌「林野」11月号に掲載)

また、当日は表彰式に続き、「第4回森林づくり全国推進会議(事務局:公社)



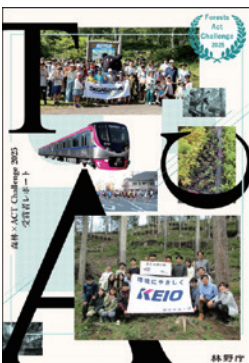
表彰式での記念撮影



パネルディスカッション

国土緑化推進機構)とシンポジウムが開催され、「企業と森林の共創によるWin・Winな未来へ」と題して、推進会議の会員企業である損害保険ジャパン(株)カルチャー変革推進部 サステナビリティ推進グループリーダー加藤様及び西日本旅客鉄道(株)DX本部 ビジネスデザイン部 JCLaaS事業部 課長後藤田様、「森林×ACTチャレンジ2025」グランプリ受賞者の京王電鉄(株)開発推進部 技術担当課長佐藤様、(公社)京都モデルフォレスト協会 常務理事兼事務局長仲間様によるパネルディスカッション(モデレーター:一社)日本農福連携協会 皆川芳嗣会長理事)が行われ、企業による森林づくり活動の位置づけ、活動のメリット等について活発な議論がなされました。

企業による森林づくりの取組を普及



受賞者の取組内容やその背景等を伝える“受賞者レポート”

「森林×ACTチャレンジ2025」受賞者による森林づくり活動の取組内容やその背景について、分かりやすく説明した「受賞者レポート」を林野庁ウェブサイトで公開しています。

「森林×ACTチャレンジ」の詳しい情報はこちら



「サザエさん一家の『もりのわ』話 吹き出しコンテスト」の詳しい情報はこちら



「森林づくり全国推進会議」の詳しい情報はこちら



緑の募金法制定30周年

緑の募金法制定30周年を迎えて

1950年に始まった「緑の羽根募金」は、国民の皆様の善意によって支えられ、長年にわたり森林整備や緑化活動の礎となってきました。その精神を受け継ぎ、1995年に「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」（通称：緑の募金法）が制定され、今年で30周年を迎えました。国土緑化推進機構と各都道府県緑化推進委員会が主体となり、国民の皆様の理解と協力のもと、「寄附」という形を通して、国内外で行われる植樹や間伐等の森林整備、緑化を行うボランティア活動、森林を活用した子どもたちへの森林環境教育等を支援し、森林や緑を守り育てる活動が幅広く展開されてきました。

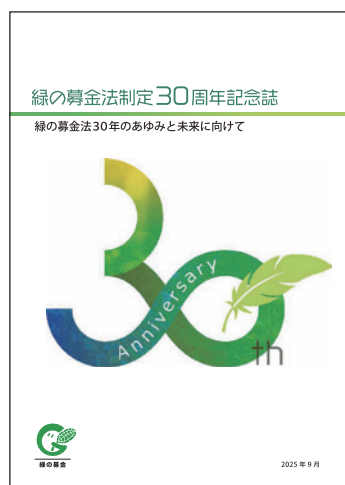
緑の募金法制定30周年記念誌

この節目の年を記念し、これまでの30年間の歩みを振り返るとともに、募金事業や緑化運動の成果を広く紹介する「緑の募金法制定30周年記念誌」が発刊されました。

記念誌では、緑の募金法制定の経緯やその趣旨、各地での取組事例、成果の紹介、そして未来への展望がまとめられています。スマートフォン対応版や電子書籍版も公開されており、より多くの方々にご覧いただけるよう工夫されています。

記念誌は下記ウェブサイトからご覧いただけます。

<https://www.green.or.jp/bokin/30th-anniversary>



30周年記念誌表紙



「無限」を意味する記号「∞」infinity（インフィニティ）を「30」と絡め、緑化活動は長い年月が必要になることや緑化活動の無限の可能性をイメージしデザイン

記念誌で紹介された取組事例

（公社）広島県みどり推進機構では、「緑の募金」を活用し、平成10年より「みどりづくり活動支援事業」を実施しています。これまでに行った支援活動は、県内全域で1,000件を超え、里山の保全、学校や公園の緑化、竹林の整備、苗木の植樹、自然観察会や環境学習など多岐にわたります。



子どもたちの参加による林内整備

地域の取組

<https://www.green.or.jp/bokin/first/know/approach>

ふるさとの森づくり支援サイトの開設

また、30周年記念誌の発刊に合わせて、国土緑化推進機構の「緑の募金サイト」から各都道府県緑化推進委員会の募金のページに容易にアクセスできるポータルサイト「ふるさとの森づくり支援サイト」が新たに開設されました。地域に根ざした緑化活動への幅広い支援につながる情報を集約していくこととしています。

ふるさと森づくり支援サイト

<https://www.green.or.jp/bokin/furusato-green/>



これからの緑の募金

30年の節目を迎えた今、私たちは次の世代に豊かな緑を引き継ぐ責任があります。この募金は、国内だけでなく、海外の森林再生、人材育成にも活用されています。また、森林の保全にとどまらず、災害復旧支援や環境教育など、持続可能な社会づくりにも貢献しています。皆様の温かいご支援を、これからもよろしくお願いいたします。



平成7(1995)年
緑の募金ポスター



令和7(2025)年
緑の募金ポスター



2

森林・林業の魅力を発信
来たれ未来のフォレストワーカー！

日本の国土を守る仕事「林業」。森林・林業の魅力を発信し、担い手を確保・育成する取組を紹介していきます。

森林の仕事パークで森林・林業に触れる

全国森林組合連合会では、自然やアウトドアが好きな方等、幅広い方々に森林・林業への関心を持っていただくことを目的として「森林の仕事パーク」を開催しています。会場内では、現役の林業従事者によるトークショーのほか、木工製品コーナーや、VRを使ったチェーンソー体験など、来場者が楽しみながら森林・林業を身近に感じられる多彩なプログラムを用意しています。

この「森林の仕事パーク」は今後も様々なイベントへの出展を通じて森林・林業の魅力を広く発信していきますので多くの方の参加をお待ちしております。



親子で木材製品と触れ合う



現役の林業従事者による魅力発信



チェーンソー作業体験VR



林業就業相談コーナー

「森林の仕事パーク」出展予定
●令和8年2月28日(土)、3月1日(日)
「ファーマーズ&キッズフェスタ」
@代々木公園イベント広場

森林・林業の仕事を知る・就く

全国森林組合連合会では、森林の仕事に興味のある方から、林業への就業を考えている方まで、気軽に参加できるオンライン形式の就業ガイダンスを、令和8年2月23日(月・祝)に開催します。当日は、Zoomを使用し、林業への就業に関する説明のほか、各都道府県の担当者と直接話せる個別ルームも設けられており、地域ごとの特徴や就業支援の内容などについて、詳しく聞くことができます。林業に関心を持った方、もっと詳しく話を聞いてみたい方は、この機会にぜひご参加ください。

参加費 無料 定員 100名

森林の仕事
オンラインガイダンス

2025.11.8(土) 2026.2.23(日)

午前の部 10:00-12:00 / 午後の部 14:00-16:00



←参加申込ページ

森林・林業の知識・技術を学ぶ

森林や林業の仕事をより深く学びたい方には、各地で開校されている林業大学校や林業関係の高等学校への進学がおすすめです。これらの学校では、森林や林業に関する基礎知識のほか、林業機械などの専用機材を使った実習を通じて、現場で役立つ技術を身につけることができます。さらに、森林経営や資源管理など、経営的な視点から林業を学べるカリキュラムを設けている学校もあります。また、林業大学校の就学期間中に安心して研修に専念できるように、「緑の青年就業準備給付金事業」（最大155万円/年）という支援制度も用意されています。

「緑の雇用」で森林・林業の技術・技能を磨く

林業の現場に必要な技術や技能を身につけながら働ける「緑の雇用」事業があります。林業従事者として必要な安全で効率的な作業技術を3年間かけて習得できるほか、研修を通じて林業に必要な資格を取得することもできます。

また、集合研修では、他の地域で働く仲間との情報交換や意見交流の機会もあり、林業従事者としてのネットワークづくりにもつながります。さらに、就業年数に応じたキャリアアップ研修で段階的にスキルを高めていくことができます。

←詳細は緑の雇用RINGYOU.NETウェブサイトにて



緑の青年就業準備給付金事業とは

- ・最大2年間受給可能
 - ・就業予定時45歳未満
- ※卒業後、一定期間林業分野へ就業等の要件があります。



最大
155万円/年
給付可能!

↑詳細は林野庁ウェブサイトにて

●林業大学校については「〇〇県(道府) 林業大学校」でウェブ検索



「かわいい」林業をSNS等で発信



緑の雇用RINGYOU.NET 公式SNSアカウントフォローで 森林・林業情報ゲット!

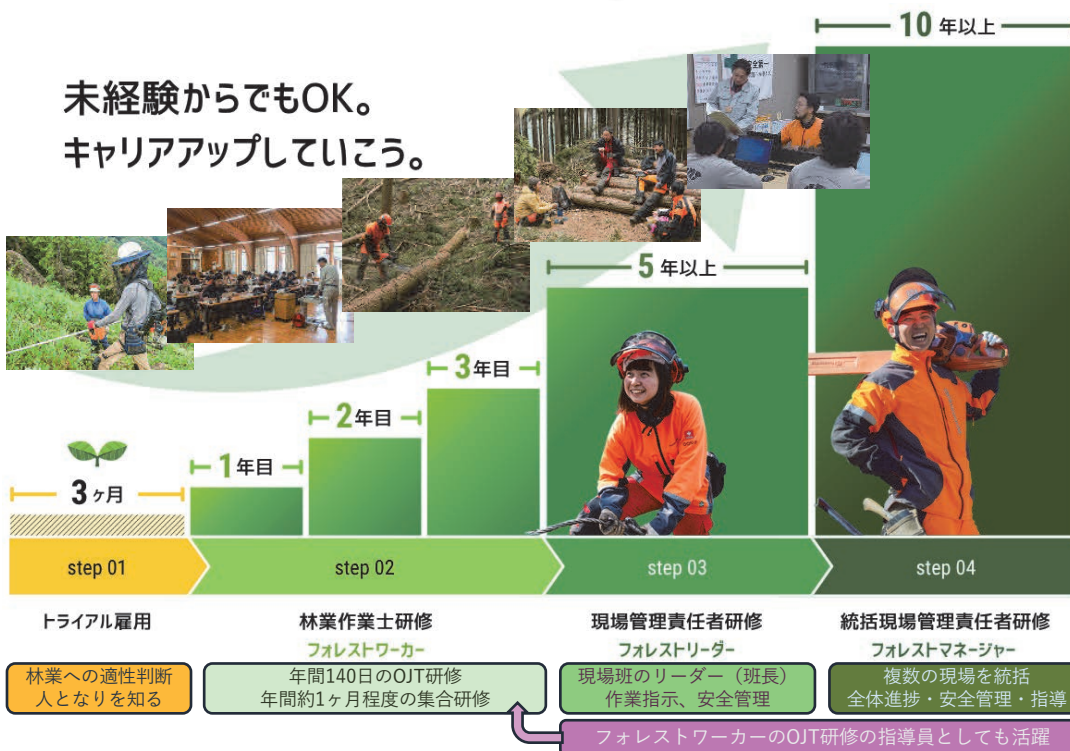


X



Instagram

未経験からでもOK。
キャリアアップしていこう。



第64回農林水産祭における 天皇杯等三賞受賞者（林産部門）の紹介

農林水産祭は、国民の皆さんに農林水産業と食に対する認識を深めていただくために、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会が共催して、昭和37年から実施しており、今年で64回目となります。

農林水産祭では、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞された方々の中から、7つの部門ごとに天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞を選賞し、表彰を行っています。

今回、林産部門では47の取組について審査が行われ、天皇杯に大白川生産森林組合（新潟県魚沼市）、内閣総理大臣賞に吉田正平氏（石川県気仙郡住田町）、日本農林漁業振興会会長賞に常陸太田市森林組合（茨城県常陸太田市）が選賞されましたので、紹介します。

天皇杯

大白川生産森林組合（新潟県魚沼市）川上から川下までの関係者が連携した豪雪地のブナ林経営

同生産森林組合は、かつて新炭林だったブナの共有林を昭和47年に受け継いで以降、地元森林組合や建設会社の協力も得ながら間伐・小面積皆伐を計画的に進め、50年以上にわたり地域のブナ林の持続的管理に取り組んでいます。

さらに、生産したブナ材を活用し、豪雪地特有の根曲がり部を使ったパークゴルフヘッドや、腐朽菌によるダメージを個性として取り入れた木製家具など、木材としての課題を克服した新たな製品をデザイナー・木工所等と協力しながら数多く生み出し、ブナ材の販売額向上につなげています。

これらの川上から川下までが連携した、ブナ林の持続的管理とブランド化によるブナ材の高付加価値化の取組が広く注目されています。



根曲がりを活用したパークゴルフヘッド



腐朽菌によるダメージを個性として取り入れた家具（「生態デザイン」のテーブル）



内閣総理大臣賞

よしだ しょうへい
吉田 正平氏(岩手県気仙郡住田町)
『創意工夫による高品質な苗木の安定供給で地域を支える』

吉田氏は、平成9年に吉田樹苗の経営を引き継いで以降、県内外の苗木生産者を訪問しながら技術力の向上に努め、県内生産者として初めてスギの挿し穂による苗木生産に成功しました。コンテナ苗の生産にも県内で初めて着手し、生産技術を確認させるなど県内コンテナ苗の第一人者として知られており、コンテナ苗の生産は年間約50万本に上っています。

また、県内外からの視察を積極的に受け入れるなど、苗木生産の技術・知識の普及を進めるとともに、エアコン、水洗トイレ、冷蔵庫を備えた作業員休憩所の設置や作業員の希望に応じた勤務時間を設定するなど、働きやすい環境の整備にも積極的に取り組んでいます。



日本農林漁業振興会会長賞

ひたらおた
常陸太田市森林組合
(茨城県常陸太田市)
『長期経営受託による安定経営と地域の森林への貢献』

同組合は、施業の集約化を図るため、森林所有者と10年間以上の長期間に及ぶ森林整備受託契約を締結し、計画的、集約的な森林施業を実施しています。市有林では森林情報のデジタル化による台帳整備に協力するとともに、15年間の市有林施業計画を提案し、まず5年間の施業受託を契約することで、事業量を確保し組合の経営基盤の強化を図っています。また、計画的な施業の集約化を進めてコストを削減し、森林所有者の山林所得向上を実現しています。



実りのフェスティバル

「実りのフェスティバル」は、農林水産祭の一環として、都道府県の農林水産物の展示や販売を中心として行う行事で、昭和37年から実施され、今年で64回目となります。令和7年度は10月31日(金)、11月1日(土)の2日間、サンシャインシティ(東京都豊島区)で開催されました。

「実りのフェスティバル」には都道府県・農林水産関係団体の展示等のほか、農林水産省が出展する政府特別展示コーナーもあり、林野庁からも出展しました。

林野庁のブースでは、国産材が原料の紙製飲料容器「カートカン®」の配布や国産材が使われた木製品の展示等を通じて、身近なものを木に変える「ウッド・チェンジ」の普及啓発を行いました。

来場者は、展示してある木材製品を手に取り、その良さを実感していました。また、「国産の木を使うことが、良いことと分かった」、「展示してあるような木の食器やおもちゃなど買ったり、使ったりしてみたい」、「最近、木造の大きな建物を見る機会が増えるなど、木の利用が進んできていると感じる」などといった感想をいただき、イベントは盛況のうちに終了しました。



カートカン®
間伐材を含む国産材を30%以上使用





木炭断面

「岩手木炭」の伝統的な生産技術 —高品質な木炭生産を続ける岩手の木炭業—

岩手大学 技術専門職員／森林インストラクター
岡田菜月

「岩手木炭」について

木炭は主に製法の違いによって黒炭と白炭に二分されます。蒲焼などで有名な備長炭は白炭ですが、火付けの容易さと強い火力が特徴の黒炭は、家庭での暖房や調理、BBQや炭火焼、鍛冶や茶道などに幅広く用いられてきました。豊富な森林資源を持つ岩手県はこの黒炭の日本一の産地です。

岩手県では、統一された規格の炭窯でナラやクヌギを用いて炭焼きされ、炭化率の低い部分を取り除き、不純物の程度の指標である「精煉度」の検査値が8度以内の黒



岩手切炭 写真提供：岩手県木炭協会

炭だけを「岩手木炭」や「岩手切炭」として販売しています。これらは火が付きやすく、不純物が少ないため煙や臭いも少ないという、消費者の使いやすいことが保証された高品質の木炭です。長年にわたって高品質な木炭を生産し続けていることが評価され、土地の名前を冠した特産物名、地域ブランドとして農林水産省の地理的表示（GI）保護制度に登録されています。このような信用のおける「岩手木炭」が確立されるまでには、長年の努力がありました。

農山村民の生活を支えた木炭生産とその技術

製鉄などの鉱業における需要も大きかった岩手では、明治以前にも木炭が多く生産されていました。明治23（1890）年に東北本線が盛岡駅まで開通して木炭を東京市場に出荷できるようになったことや、凶作時の農村救済事業として生産が奨励されたことにより、岩手県の木炭生産量は増加していききました。製炭業は岩手県で、耕作可能な土地が少ない山村の人々にとって不可欠な重要産業となったのです。

この木炭生産の発展に大きな役割を果たしたのは、築窯や製炭技術の改良・普及でした。森林地域で小規模分散的に行われる



岩手木炭の鉄路による出荷 岩手県木炭協会所蔵

木炭生産は、コツと勘による自己流の炭焼きとなりがちでした。それによる品質のばらつきや収炭率（原木を木炭に置き換える比率）の低さを克服するために、優れた製炭法を県内で統一的に実施してゆく努力が続けられました。古くは広島県から名人の檜崎三三を招き、明治39（1906）年から志和村（現在の紫波町）山王海地区に製炭伝習所を開設して、製炭技術や包装調整等の教育を行った取組が挙げられます。その後、炭窯の改良や技術指導が続けられ、戦後



岩手大量窯 写真提供：岩手県木炭協会



窯打ち（築窯）の光景 写真提供：岩手県木炭協会

の昭和27（1952）年に岩手県木炭協会が設立されたのち、製炭技術のいわば集大成として昭和31（1956）年に「岩手窯」が完成しました。県内の製炭法はこの「岩手窯」およびその改良型の「岩手大量窯」に統一されて現在に至っています。

しかし、優れた同一規格の炭窯を用いても、実際の炭焼きの条件は毎回異なり、良い炭焼きには優れた技術が不可欠です。模範製炭場での講習や普及員による普及活動が盛んに行われ、岩手県の木炭生産者の高い技術を支えし、それが統一規格の炭窯とともに現在の高品質で収炭率の高い岩手木炭の生産に繋がっています。炭窯作り（築窯、窯打ち）や製炭技術の普及活動は現在も連綿と続けられています。

高品質な木炭生産と品質検査

技術の改良・普及とともに、県を挙げて



岩手県木炭品質評会作品展

の品質検査も特筆すべき取組です。高品質の木炭のみを出荷して消費者の信用を得るとともに、都市部の問屋に安く買い叩かれ

ないようにするため、大正10（1921）年には全国に先駆けて県営木炭検査が開始され、岩手木炭のブランド確立に貢献するとともに、木炭の公営検査制度が全国に波及する先駆けとなりました。公営検査は昭和49（1974）年に幕を閉じましたが、岩手県木炭協会によって「精煉度」の検査が行われるほか、平成2（1990）年以降現在まで岩手県木炭協会による岩手県木炭品質評会が実施されており、木炭生産の技術向上を奨励する役割を果たしています。



品質評会での審査 写真提供：岩手県木炭協会

林業遺産「岩手木炭」の今後

このように、岩手県の高品質な木炭生産は、製炭技術や木炭品質の向上を目指す生産者・業界団体・行政による歴史的かつ継続的な努力によって築き上げられたもので、その総体が後世に引き継がれるべき価値

があるものと認められ、2024年度に林業遺産に選定されました。岩手県の木炭生産量は、大正元年から令和4年まで日本一でしたが、生産者数や生産量は減少傾向にあり、令和5年の生産量第1位の座は白炭生産の盛んな高知県に譲る結果となりました。しかし、岩手木炭はG1登録に加え、近年では海外からもその品質の高さから引き合いが強く、輸出にも取り組んでおり、国内外から高い評価を得ています。また木炭の魅力を再認識し、首都圏からのUターン後に両親とともに木炭生産に励む若手生産者もおられます。林業遺産への選定が、炭焼きの技術に関心を持って次世代に引き継いでくれる後継者が登場する一助となることを期待しています。



若手生産者の一人、七戸宏太さん



一般社団法人 岩手県木炭協会 : <https://www.mokutan.jp/>

地域に根差した森づくりと地域づくりに向けて

萩市農林水産部 林政課
林業振興係長 井上貴文

はじめに

私は萩市に採用され10年、継続して林務担当を務めています。萩市に採用される前は、林野庁に8年勤務しており、立場を変えながら林業行政に携わってきました。地域に根差して森林に関わっていく中



まちなみと合わせた木質空間づくり

で、プロフェSSIONナルを目指し責任を持って取り組むための自身の意識づけとして森林総合監理士の資格を取得し、現在もその想いで活動をしています。

森林総合監理士としては森づくりが本分ですが、市町村職員としては森づくりも含めた地域づくりという視点を持つことが求められます。本稿では、そのような市町村フォレストアーとしての活動についてご紹介します。

活動地域の紹介

私の活動地域である萩市は、山口県の北部に位置し、「明治維新胎動の地」として多くの志士を輩出したことで知られる、歴史・文化を保存活用した観光のまちです。農業や水産業も盛んで、歴史的なまちなみに加え、風光明媚な景観や美味しい食もある資源豊かな地域です。皆様ぜひおいでませ！

一方で、地域の8割を超える森林は影が薄い存在です。かつては生活と密接に結びついた里山林が多く、木材産業も盛んで、

拡大造林期には人工林造成も進めましたが、生活様式の変化や木材価格の下落により森林の活用機会は縮小し、産業面でも林業・木材産業のウエイトは小さい状況です。

川上から川下の地域全体の取組

前述のような林業が盛んではない地域では、森林だけに焦点を絞った事業は進みにくく、木材や森林資源の利用等を通じて多くの市民や地域事業者等へ効果が波及するような施策を考えていくことが肝要です。

2018年度からの3年間は、森づくりを見据え、森林資源を活用することを目的に、川上から川下まで連携した体制づくりに取り組まれました。幅広く地域の事業者等へのヒアリング等から現状分析を行い、川上側では森林の集約化と素材生産量の拡大を進め、川下側では情報発信、営業や販売促進などの不足している機能を整理しました。この成果を受け、必要な機能を担う

主体として、2021年に森林分野の地域商社が設立され、以降、地域商社は木育や森林イベント等の一般市民向けの普及啓



市民を対象とした素材生産ツアー

発等に積極的に取り組み、森林の関係人口を増やしています。

また、並行して私自身は不勉強であった製材・木材流通・木材利用に関して、木材コーディネーターに関する講座を受講したことで、知識・経験に加え、全国の様々なコーディネーターとのネットワークを得ることができました。地域の森づくりをテーマにコーディネーターの自主的な研修会を萩市でも開催し、様々な観点から意見交換



萩市森林・林業ビジョン

基本理念

次世代まで幸せになる林業

将来像

森林整備



連動した
持続可能な状態

森林資源利用

基本方針・施策

「人と生きるもりづくり」

利益の還元と生産性の向上

- ・団地化による施業の集約化と路網の整備
- ・事業量の安定確保
- ・主伐・再造林一貫作業の推進
- ・適正な経営管理と生産性の向上



魅力のある林業の実現

- ・林業就業者の所得等の改善
- ・林業就業を見据えた学校・移住者等へのアプローチ
- ・林業経営体の体制強化と担い手確保・育成・定着



多様な森林機能の発揮

- ・再造林の促進と団地外の森林の適正な整備・管理
- ・公益的機能を高める多様な森林づくり
- ・治山事業の推進



「森と生きるまちづくり」

森林の恵みを活かした暮らしの創出

- ・住宅や建築物等への萩市産材の利用促進
- ・イベント等を通じた木材利用事例の啓発
- ・木材を利用するライフスタイルの普及



森林に関わる人材の育成

- ・森づくりから木づかいまで関係者相互の意見交換の場づくり
- ・知識・関心を高めるための勉強会の開催
- ・木育やフィールド活動等を通じた人材育成
- ・教育現場における体験プログラムの実施



森林資源の価値の上昇

- ・萩市産材の高付加価値化と販路拡大
- ・競争力のある製品開発・ブランディング
- ・未利用材・林地残材の活用



を行い、森づくりと資源利用のあり方について理解を深めました。
こうした取組で得た知見を活かして、2022年度に市が目指す森林の将来像や長期的な取組方針を示す「萩市森林・林

業ビジョン」の策定に従事しました。森づくりとまちづくり(資源利用)の連動を謳っており、森林関係者以外にも多くの市民の理解を得て体系的・継続的な事業展開を行うよう努めています。



新たな商品化に向けた取組

2024年度からは地域商社も加えた関係者による地域協議会を設立し、萩市の強みである観光と森林資源の活用を掛け合わせた商品を開発するプロジェクトを立ち上げ、企画調整を行っています。目下、具体的な商品化の最中であり、旅行業や飲食



関係者と連携した事業化の調整

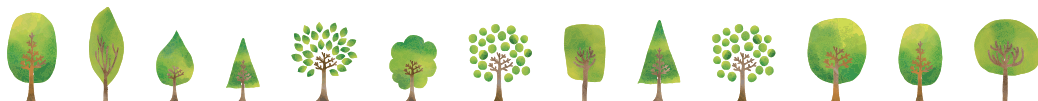
市町村では、一般市民に寄り添い、森林について分かりやすく情報発信することが求められるとともに、地域に根差して森づくりを担う責任ある立場として、自然科学の視点を持ち、専門的な知識を探求し続けることが必要です。
これからも市町村フォレストラーとして、ジェネラリストとスペシャリスト両方の感覚を磨き、地域に相応しい森づくり・地域づくりを目指していきたいと考えています。



業の関係者とも意見交換し、森とまちを奔走しています。今後は商品生産に必要な森林資源の供給体制の整備や、それらを長期的な森づくりにつなげていく手法について、地域の特性を加味して具体化する予定です。



観光(飲食)業向けの地域材製品の試作





ウツディホールでの展示や森林環境教育を通じた普及活動について

北海道森林管理局 技術普及課

はじめに

木材は加工しやすく親しみやすい素材として、住宅はもちろん、家具や玩具、産業用資材など多くの用途に利用されており、私たちの暮らしに欠かせません。林野庁では、身の回りの物を木に置き換えたり、木を暮らしに取り入れたり、建築物を木造・木質化する「ウッド・チェンジ」の取組を推進しています。

展示による普及啓発・情報発信

「ウツディホール」は北海道森林管理局の吹き抜け式のエントランスホールです。ホールの構造物そのものが木材展示と言えるほど、天井にはエゾマツやハリギリ、柱にはトドマツ、床にはダケカンバやミズナ

ラといった道産材がふんだんに使用されており、木の質感とぬくもりを存分に感じられる空間となっています。

ホール内の一番人気は児童が木のおもちゃで遊べる「木育コーナー」で、木のボールプールや家のほか、ウサギなどの動物をあしらった木のおセロや、輪切りされた木材を並べて倒す「年輪ドミノ」など、親子連れや近隣の保育園児に楽しまれています。



「木育コーナー」



「ウツディホール」全景

管内概要

所在地 北海道札幌市中央区宮の森3条7丁目70番

区域面積 8,342,227ha
うち森林面積 5,535,870ha
うち国有林野面積 3,038,833ha
(森林面積に北方領土の面積は含まない。)

関係市町村 北海道179市町村のうち150市町村

北海道森林管理局では、北海道に広がる森林のうち、約55% (約304万ha)に相当する国有林の管理や保全を行っています。

管内国有林は、トドマツやエゾマツといった針葉樹、ミズナラ、イタヤカエデ、カツラなどの広葉樹が混交する森林となっており、季節ごと、地域ごとに様々な表情を見せてくれます。

北海道には、多くの国立公園や国定公園がありますが、そのうち国立公園の約8割、国定公園の約6割を、国有林が占めています。こうした自然公園の美しい景観や豊かな自然環境、生きものたちが暮らす生態系を守るために、森林の管理・保全に取り組んでいます。

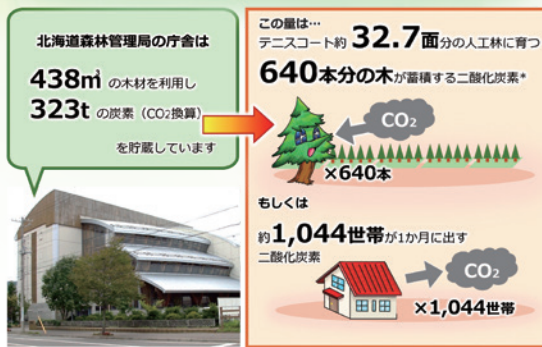
この他にも、世界自然遺産である知床をはじめ、原生的な自然環境が広がる地域、ブナの自生北限・トドマツの自生南限、シマフクロウやレブンアツモリソウなど希少な野生生物が生息・生育する学術的にも価値の高い森林が数多くあり、これらの森林を未来に引き継いでいけるよう、大切に守り育てています。





占冠村の企画展示 ※現在は終了しています

北海道森林管理局庁舎に利用した木材に係る炭素貯蔵量



また、北海道の主要樹種の木材・球果や、庁舎の木材利用状況と炭素貯蔵量のパネルの展示のほか、プロ野球選手が使用した木製バットや、その材料となるアオダモを

「ウッドデイホール」は森林環境教育等を行う場としても活用されています。

令和7年度は、5月に札幌市立宮の森小学校の施設見学を受け入れ、2年生約100名を迎えて各コーナーを紹介したほか、木の太さを測る体験(測樹体験)や大型モニターによる森林クイズにも挑戦していただきました。児童の皆さんからは「もっと木のことについて知りたくなりました。」「木は私たちの生活を支えてくれていることが分かりました。」などの感想が寄せられ、森林や木材についての理解を深めていただく良い機会となりました。

7月には、「地域の魅力や価値を体感し、再発見すること」を目的に、札幌市内の公共・文化施設、企業施設を一日だけ特別に夜間開放する「カルチャーナイト2025」の会場として、ウッドデイホールを開放しました。当日は親子連れを中心に約170名が来庁し、鉛筆製造で発生す

森林環境教育の場としての活用

テーマにした「野球バットコーナー」などの常設展示があります。

さらに、「ウッドデイホール企画展」として、国有林や市町村等の森林・林業及び木材産業等に関する取組の紹介や、写真展、特産品の企画展示も行っており、地域の情報発信拠点の一つとなっています。このような展示を通じて、令和6年度の来庁者は延べ約3千人にのぼり、地域の皆様に親しまれています。



カルチャーナイトでの木のたまごの色塗り体験



宮の森小学校児童にバットの説明

るおがくずを使った粘土「もくねんさん」での粘土細工、「木のたまご」や「木のコースター」への色塗り、北海道の森林・林業を

庁舎に利用した木材の炭素貯蔵量

建物のエントランスは、来場者に第一印象を与える建物の顔ともいえる重要な空間です。「ウッドデイホール」での展示や活動を通じて、北海道森林管理局の業務内容を理解していただくとともに、木材と気軽に触れ合っていたく空間として提供することで、より一層地域の皆様に親しまれ、印象的な場所としてあり続けられるよう努めてまいります。

おわりに

題材にした「北の森カルタ」などを体験していただきました。来場者からは、「たまごもカルタも楽しかったです！ また来年も来ます！」初めて(北海道森林管理局)に入ったけれど、どこを見ても木でいっぱいでした。別の日にまた子どもを連れて遊びに来たいと思いました。」などの声が寄せられ、来場者の方々に木材とのふれあいを存分に楽しんでいただきました。

令和7年度

木材利用推進 コンクールの 受賞施設等決定!

このたび木材利用推進コンクール(主催:木材利用推進中央協議会)において、100件を超える応募の中から受賞施設等が決定しました。10月28日(火)に木材会館(東京都江東区新木場)において、表彰式が盛大に行われました。

優良施設部門



内閣総理大臣賞

NISHIGAWA TERRACE (岡山県)

地方都市の市街地に多い低層商業施設にフィットした一方向ラーメン、燃え代設計(準耐火構造)による木材現しの空間を創出。地方の中小製材所で製作可能な構成部材を用い、木材の調達、部材生産、建設までを地域内で担うことができ、地方で展開可能な木造のモデルタイプとなることに期待。



農林水産大臣賞

パッシブタウン 第5街区(富山県)

木造耐火構造の中高層集合住宅。設計開始1年前から富山県の森林組合と連携し、木材調達体制を構築。使用された木材の87%を建設地から85km範囲の森林から調達し、加工。オーストリアの木造建築家と竹中工務店が共同設計し、日本の風土(耐震・耐火・気候)に合った次代の木造化・木質化に取り組んだ優良な事例。



文部科学大臣賞

六戸町立義務教育学校 六戸学園(青森県)

川上から川下の連携による地域材調達体制を構築し、構造躯体に県産材を84%使用。大スパンの張弦梁や木と鉄のハイブリッドトラス工法を採用し、構造の経済性と施工性を両立。ヒバ材を多用した温かい内装などにより木の温もりあふれる快適な学習環境を提供。



国土交通大臣賞

CREVAおおくま(福島県)

東日本大震災と原発事故による被害を受けた福島県大熊町に復興や新産業創出のためのオフィス及び交流のための複合施設として整備。中央に県産材と鉄骨を組み合わせた大空間の共用スペースを設け、暮らす人・働く人・町を訪れる人など利用者の垣根を越えて誰もが自分の居場所と感じられる温かい印象の交流の場を創出。



環境大臣賞

自然循環型CLT & ZEBオフィスビル(兵庫県)

兵庫県産スギ・ヒノキを用いた木造CLTパネル工法のオフィスビル。太陽光や太陽熱など自然エネルギーを活かすとともに、施工から運用まで建物の環境負荷を最大限に低減し、完全ZEBを達成した次世代のモデルとなるCLT建築。

林野庁長官賞

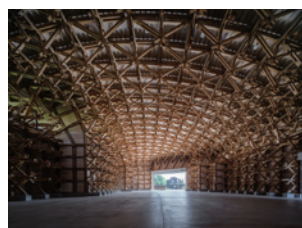
キャプション by Hyatt 兜町 東京(東京都)

地上12階建ての木造ハイブリッド構造による都市型ホテル。環境負荷を抑えながら、快適性・機能性・耐火性を両立し、木造の魅力を生かした、都心における中高層木造建築の可能性を示す先導的事例。



高槻城公園芸術文化劇場(南館) (大阪府)

設計の段階から地元の森林組合と対話を行うことで内外装に使用した木材はすべて大阪府産を使用。内外装には周辺の木立に溶け込むように木ルーバーが張り巡らされており、光と緑があふれる開放的な空間が創り出されている。



エバーフィールド木材工場(熊本県)

小国杉を使い、材長4m以下の小中径製材が互いにもたれかかるように支え合う「木造レシプロカル構造」により、斬新な木造無柱空間を実現。自然災害からの再建の原動力となる木造建築産業のさらなる活性化及び地域における大工の育成や技術力の向上を図るためのスペースとしても構想。

令和7年度 木材利用推進コンクール
受賞施設等の概要はこちらをご覧ください。
(https://www.jcatu.jp/commendation/17_list_detail.html)





「ミス日本みどりの大使」とは

公益社団法人国土緑化推進機構Webサイト「みどりの大使」
(<https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/entry-1679.html>)

みどりの大使が行く!



2025
ミス日本
みどりの大使
佐塚 ころこ

行動力あふれる高校生の発表を聞いて

みなさんこんにちは! 第4回森林づくり全国推進会議の司会として出席した際に高校生による持続可能な未来に向けたアクションアイデア発表を拝聴しました。高校生のみなさんが楽しさと好奇心を持ちながら、真剣に森林の未来について考えている姿にとても温かい気持ちになりました。また、今回の発表から伝わってきたのは単なるアイデアではなく、実際に自分の足で現場に行き、体を動かしながら実践した等身大の思いでした。



高校生が描く森林のビジョン

今回発表したのは「SDGs QUEST みらい甲子園」のファイナリスト2チームで、1チームは竹林の整備や竹の活用の取組に関する発表でした。放置竹林の問題については以前から耳にしていたことが、高校生が自分たちで竹林に入り、竹を切り出したり利用方法を試したりしていたことに驚きました。竹を「厄介もの」として終わらせず、きちんと向き合えば地域の資源として生かせる、という前向きな姿勢がとても素敵だと思いました。若い世代の柔らかな発想が、森林の未来に新しい風を吹かせているように感じました。

もう1チームの発表内容は、林業従事者と一般の人をつなぐ取組でした。林業の世界は専門的で、すぐに自分事として考えづらい面がありますが、「その距離を縮めたい」という思いから活動している姿勢に感銘を受けました。森林を知る人と、普段は森林に関わる機会が少ない人がつながることで、地域の中に新しい交流が生まれる。そ



の小さなつながりが、森林全体を元気にするきっかけになるのだと思います。高校生がその橋渡しをしているという事実が、とても頼もしく感じられました。今回、高校生のみなさんの発表を聞き、活動の内容はそれぞれ違っても、「緑を守りたい」「未来に森林を残していきたい」というまなざしには共通するものがあるように感じました。

第8回ふくしま植樹祭に参加しました

第8回ふくしま植樹祭では桜の木の剪定を体験しました。桜の枝をどこで切るかを決めるのは本当に難しく、少し位置がずれるだけで木に負担がかかったり、見栄えが悪くなったりすると教えていただきました。切った部分には菌が入らないように薬を丁寧に塗り、その作業ひとつひとつに「木も生きているんだ」という実感がこみ上



げてきたのを覚えています。改めて木の繊細さを感じられた体験でした。

小さな気づきを大切に

今回の発表や体験を通して、森林を育むということには特別な人だけの仕事ではなく、立場や世代を超えて関わり合えるものだと感じました。高校生たちの行動力も、桜の剪定で得た繊細さへの気づきも、すべてが未来の森林を支える一歩につながっています。こうした小さな実践と想いが重なり、豊かな森林の未来が形作られていくのだと思いました。こうした森林の未来をともし作っていくような活動がこれからも広がることを願っています。





国産木材が切り拓く
ミライの産業・社会・暮らし

モクコレ

WOOD

Collection 2026

日本各地の地域材を活用した木材製品の展示商談会

2026年 **2月12日** (木) 10:00 - 17:30 **2月13日** (金) 10:00 - 16:30

【開催場所】 **東京ビッグサイト 西1・2ホール**

【オンライン開催】 2026年 **1月19日** (月) ~ **2月27日** (金)

<https://www.mokucolle.com/>

モクコレ



入場
無料

主催：東京都、WOODコレクション実行委員会 後援：林野庁、(一社)全国木材組合連合会、全国森林組合連合会、(公社)国土緑化推進機構、(公社)経済同友会

出展
都道府県

北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

WOOD CHANGE

WOOD
Collection 2026

TokyoTokyo

Tokyo GREEN Blz